

圧倒的な生産性向上の実現に向けた Next Stage ～Cognitive-OCR～

2018年3月16日



三井住友銀行

経営企画部 業務改革室

LEAD THE VALUE

■ 本日のアジェンダ

前段. SMFGにおけるRPA取組状況【抜粋】

1. 何故、Cognitive-OCRの導入が必要なのか？【抜粋】

2. 従来のOCRとの差異（主要なもの）【抜粋】

（参考）Cognitive-OCRの概要、システム構成【抜粋】

3. Cognitive-OCR + RPAの相乗効果【抜粋】

4. 具体的な導入事例（海外送金業務）

前段. SMFGでのRPA取り組み状況

- 半年で40万時間(200人分)の業務をRPA化
→ 今後3年間で1,500人分の余力検出を目指す
- Next Stageにステップアップ、New Technologyの実装を開始

SMBC本部の大量・定型業務を中心にRPAを活用して自動化

本部業務以外への本格展開とNew Technologyの取込み

グループベースへの横展開と内製化による適用領域の拡大

300万時間
(1,500人)

《出口戦略》

付加価値業務の拡大

働き方改革の推進

人員配置の最適化



1. 何故、Cognitive-OCRの導入が必要なのか？

- RPAプラットフォーム × Cognitive-OCRで新たな生産性向上領域を開拓
- 実用的かつ当行が求める高いセキュリティ要件を充足できたのでOCRは採用

先端技術の中で活用を検討しているもの

音声認識 (耳)

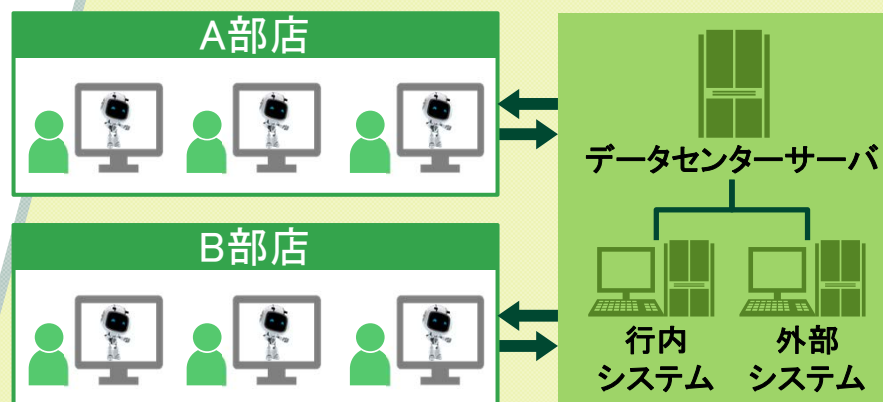
OCR (目)

AI (脳)

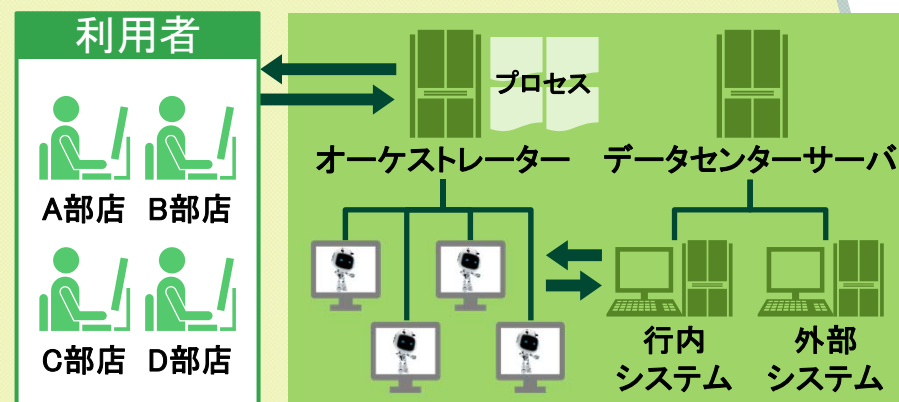


RPAプラットフォーム(手)

① 端末型: フロントオフィスロボ (FOR)

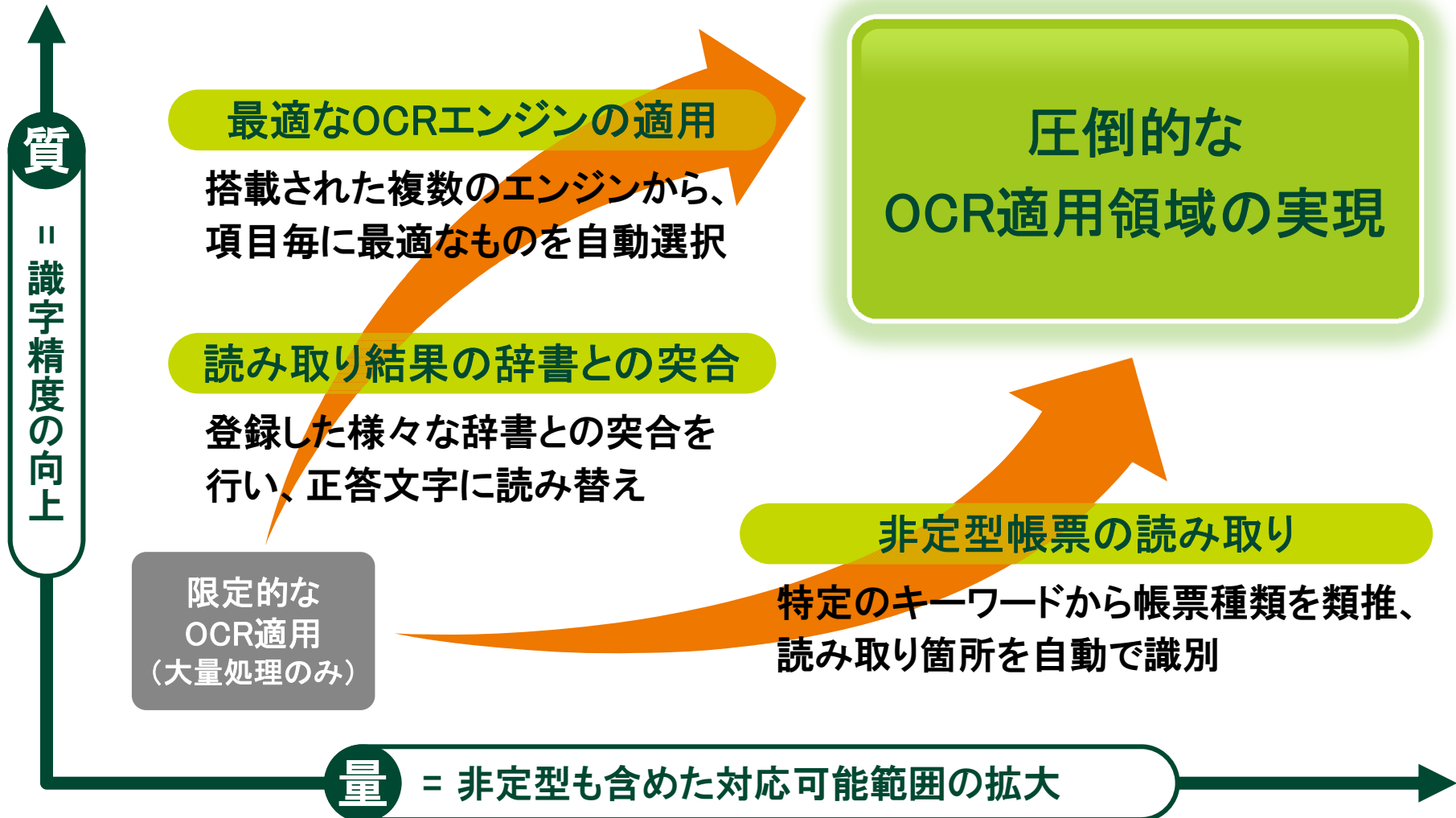


② サーバ型: バックオフィス型ロボ (BOR)



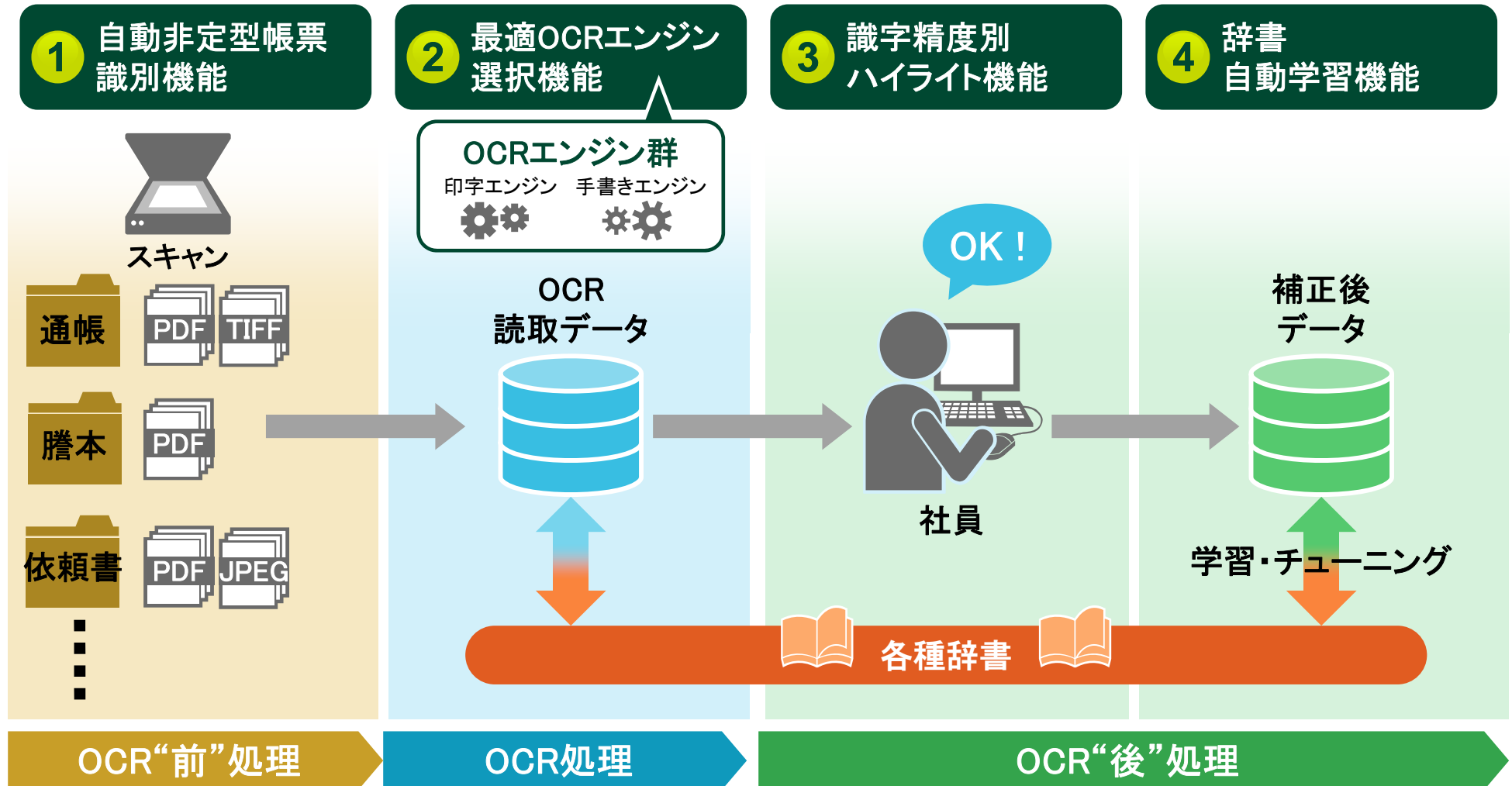
2. 従来のOCRとの差異(主要なもの)

- 帳票の量と識字の質を向上させ、OCRの適用領域を大幅に拡大



(参考) Cognitive-OCRの概要、システム構成 1/2

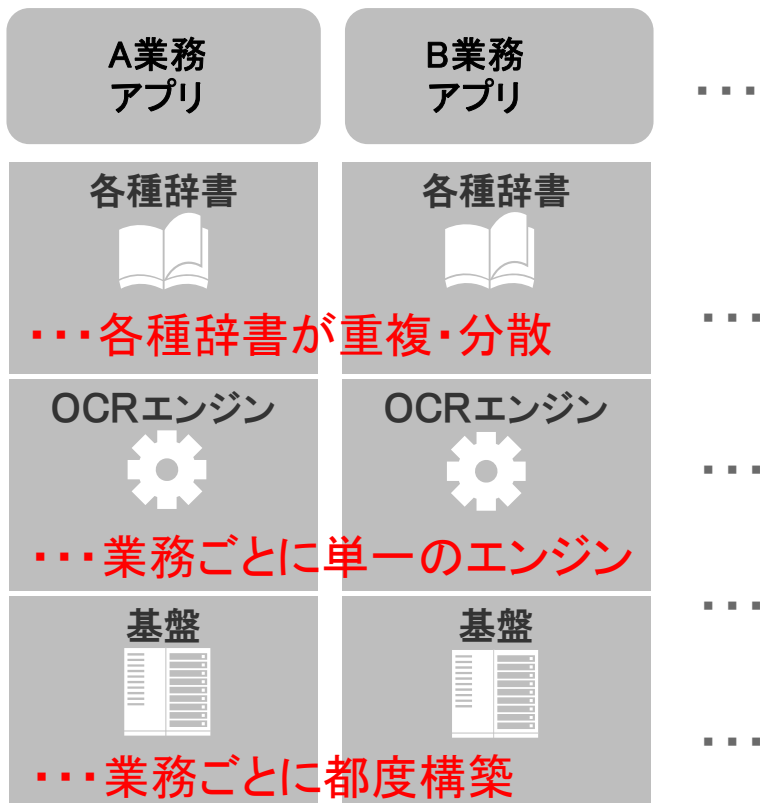
● Cognitive-OCRの主な特徴



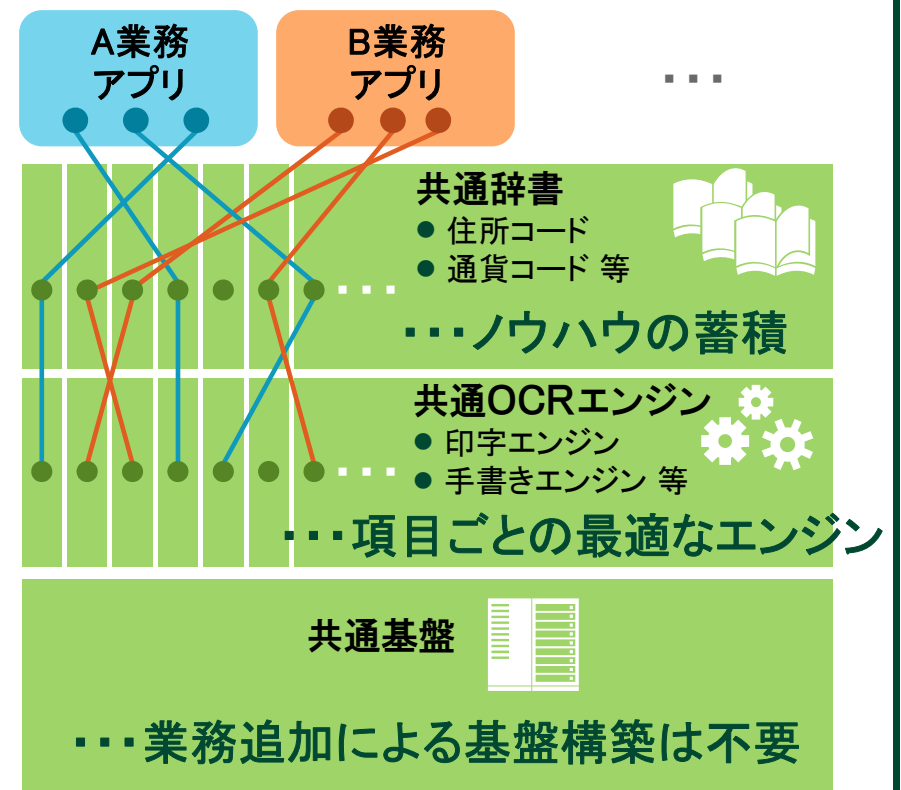
(参考) Cognitive-OCRの概要、システム構成 2/2

- 既存業務ごとにノウハウを学習し、辞書機能を大幅に改善 (PDCAサイクル)
- 項目ごとに最適なOCRエンジンを選択することで、識字性能が大幅にUP

マルチプラットフォームによる高コスト構造



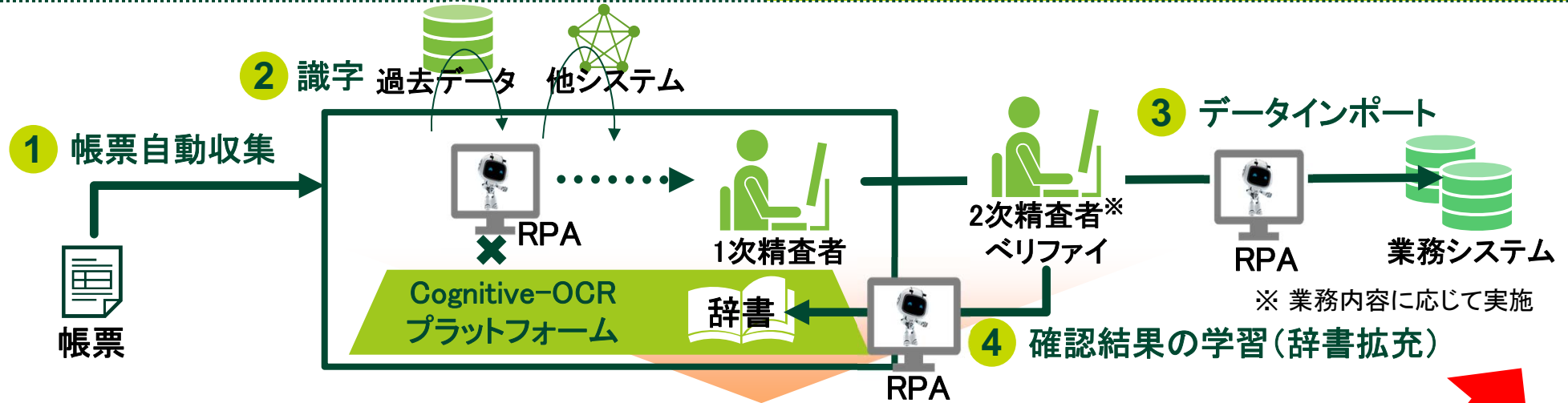
共通プラットフォームによる低コスト構造

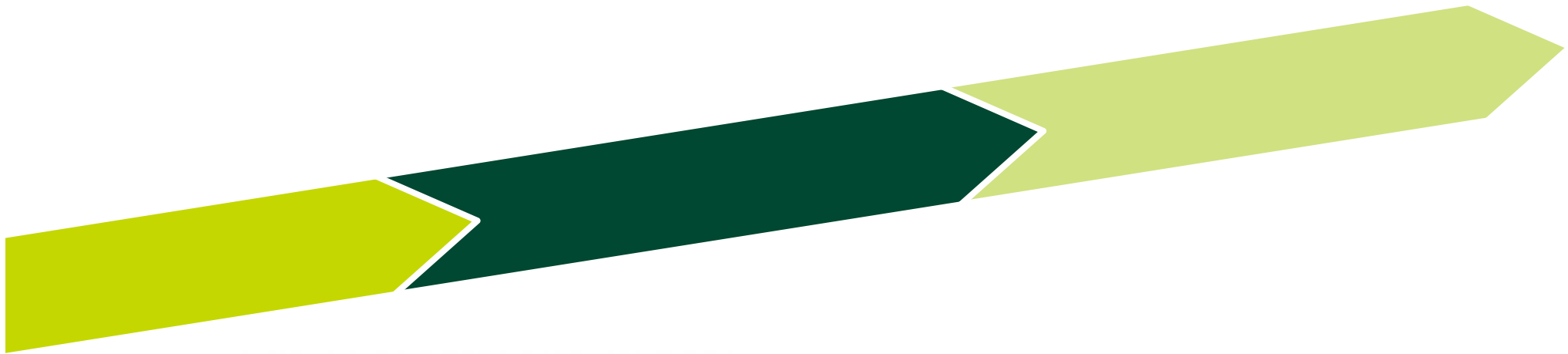


3. Cognitive-OCR + RPAの相乗効果

● Cognitive-OCRとRPAの互いの強みを活かすことで大幅な生産性向上を実現

	従来のOCR	Cognitive-OCR + RPA
① 帳票範囲	限定的なフォルダ・形式のみ	点在する様々な形式のファイルを自動収集
② 識字精度	単純な文字認識	識字結果を辞書、過去データ、他システムと突合
③ データ連携	システム改修が必要	RPAがデータ連携を行うためシステム改修不要
④ 保守性能	人手で都度対応	学習結果を自動で反映





SMFG **Next Stage**

新体制の下、グループ総合力の結集と
構造改革の推進により、持続的成長を実現

基本方針

- 1 Discipline**
ディシプリンを重視した事業展開
- 2 Focus**
強みにフォーカスした成長戦略
- 3 Integration**
持続的成長を支える
グループ・グローバルベースの運営高度化

ご清聴、ありがとうございました